



# 湊の受難

快樂の調教、週末は性玩具

## 快樂の調教、週末は性玩具

金曜の夜、終礼を終えた湊は校長に誘われ、校長の車に乗っていた。週末合宿を行うと言う校長の言葉に俺はすぐにエロいことをしまくる週末になるんだろうなと察したが、湊はそうおもってははいないらしい。校長直々の呼び出しと言うことで、緊張した面持ちのまま膝に乗せ座っている。

どうなることやら、俺は今回も高みの見物を決めることにする。やがて校長の家に着くと、食事の支度をしている間に風呂に入るよう言われた。

「はあ……緊張する……」

校長から呼び出されたのは最近思うように授業が進んでいないからかもしれない。そう思いながら体を洗い風呂からあがると準備されていたバスローブに身を包む。

「パンツは……まあいいか」

置いているのはバスローブだけ。下着もスーツもすべて校長がどこかに持って行ったようで、下着がない。

少し落ち着かない感じはしたが、リビングへ戻ると美味しそうな鍋が出来上がっていた。

「わあ、お鍋なんて久しぶりです」

「そうかい、そうかい」

校長がそう言って鍋のものを器によそうと湊に差し出した。